たより

○皆樣　お障りもいらつしやいませんか、此保育期はどちらも御多用のこと、私共も移轉につゞいて、住んでみてからの備へつけの數々、小學校入學、新入園兒の檢定、保育の修了、夫から、夫からと、誠に忙しく、從つて風邪をひくといふ年中行事をしてゐる暇もなく、一同元氣に過して居ります。

○陽のいろに、木々の蕾に彌生の春の氣配も見えて、思ふさま大氣を吸つてみたいきのふ今日、のび／＼と內部にひそむ力を發露するにはまことによい時でございませう。新園舍に移りましてからはさすがに建物から受ける心境の變化とでも申しませうか、追憶もさる事乍ら、新興幼稚園の意氣大いに旺んで、從つてこの編輯長K・K女史も、みんなが、子供をかへしてほつと一休み、一寸お茶をなどゝ丸卓子に皆の顏が揃つたら最後、お茶がまだのどを通らぬ中、編輯を、々々とまづ口切り、これ全く、編輯係の責任などゝいふよそ／＼しい事ではなく、全日本幼稚園界に、少しでもよい保育雜誌を月々お送りしたいといふ眞心でございます。

○何しろ新築園舍に住むのでございますから、朝夕のお掃除にはみな全力を注いで居ります。殊に倉橋主事は隅から隅迄よく目がお屆きで、手も足も至つておまめ、槍とも見まがふいとも長柄のはたきで、そら高くしのびやかに張られたくもの巢

を拂ておいでのある朝、あら、今日は先生のお當番日にしときませうなんて保姆一同が決議いたしました。

主事理想の計畫になる庭園の完成に近きにひかに念心の笑をふくみつゝ、庭をお掃きになります。或は、玄關前に落ちてゐた新聞紙をステッキの先にひつかけては、くづやでございーなどと若い人達をおどかしたりして、ひたすら園の酒掃に精進していらしやいますから、析角出來た主事室も席溫かならずと云ふ調子。

○かうして住んでみれば、つい先達引越して來たとも思はれず、ずつと前から此處に居る氣もすれば、遠い／＼と案じた往還の途にも、日毎親しみも增して、貧ひ目とも感じなくなりました。こゝは省線大塚驛から市電を使ふ人もあれば、歩いても十七八分といふみちのり。從來は餘りその徒歩の姿を見ぬ倉橋主事（何故かと云へば、生粹の江戸つ子であり乍ら、東京市內の交通は誠に不案內で。確かなのは自宅と幼稚園の往復のみ他は殆んど案內つきなれば）つゞいて、F・Oさん（この人時々違反する癖あり）K・Kさん、T・Tさんは徒歩組で、今朝も今朝とて、同じ道を、私は電車、Oさん、Tさんは二人竝んで徒歩。自然私は先になりました。後から先では失禮と、車掌臺から、徒歩の二人へまづ儀禮の一つとして朝の笑顏を送つたのですが通じません、更におぢぎをしたのですが駄目。隨分眞直ぐ向いて歩いたものですれ、笑顏もおぢぎもよせばよかつたと思ひました。

○新園舍にうつつて、保育第一日にうつした記念の寫眞、一同顏を揃へて御らんにいれます（よしこ）